

修身初訓
九

修身初訓
25138
372 /

T 1A1
22
MI 77

此卷凡十六章
 孝弟之次
 忠之次
 廉之次
 恥之次
 勇之次
 節之次
 義之次
 禮之次
 智之次
 信之次
 仁之次
 孝之次
 弟之次
 忠之次
 廉之次
 恥之次
 勇之次
 節之次
 義之次
 禮之次
 智之次
 信之次
 仁之次

圖書 和図書 迦



福岡教育大学蔵書

修身初訓卷之九

第一章

○孔子曰、之ヲ愛シテ能勞スルヲ無ランヤ、コレニ忠シテ能誨フルヲナカランヤ、

○有子曰、久其人タルヤ、孝弟ニシテ、上ヲ犯スヲ、好ムモノハ鮮シ、上ヲ犯スヲ好マスシテ、乱ヲ作スヲ好ムモノハ、未タコレアラサルナリ、君子ハ本ヲ務ム、本立テ道生ス、孝弟ハ、ソレ仁ヲ為ルノ本

宗 盛年編輯

宮本茂任校閱

カ、

○孟子曰ク、徐々行テ長者ニ後ル、之ヲ弟ト謂フ、疾
ク行テ長者ニ先タツ、之ヲ不弟ト謂フ、夫レ徐々行
クモ、ハ、豈人ノ能セサル所ナランヤ、為サル所ナ
リ、堯舜ノ道孝弟ノミ、

○道ハ爾キニ在テコレヲ遠キニ求ム、事ハ易ニ在
テコレヲ難ニ求ム、人々其親ヲ親トシ其長ヲ長ト
シテ、天下平カナリ、

○忠孝本ニ事ニ非ス、孔子曰ク、夫孝ハ親ニ事フル
ニ始リ、君ニ事フル中ニス、又曰ク、親ニ事ヘテ孝故

ニ忠、君ニ移スベシ、又曰ク、父ニ事フルニ資テ以テ
君ニ事ス、而シテ敬同シ、祭義曾子ノ言ヲ載テ曰ク、
君ニ事ヘテ忠ナラサルハ、孝ニ非ルナリ、官ニ莅ミ
敬セサルハ、孝ニ非ルナリ、戰陳ニ勇ナキハ、孝ニ非
ルナリ、忠ト孝ト、豈ニ事ナランヤ、之ヲ要スルニ忠
ハ孝ヲ以テ本トス、未孝ニシテ忠ナラサル者アラ
ス、古人謂フ、忠臣ヲ孝子ノ門ニ求ムト、又曰ク、孝立
テハ則忠遂ク、能聖賢ノ意ヲ識ルト謂フヘシ、自警編
○筑後國下妻郡溝口村ニ累世ノ農夫アリ、兄ヲ善
ハト云ヒ、弟ヲ善セト云フ、俱ニ父ニ事ヘテ厚シ、畫

ハ兄弟農事ヲ務メ、夜ハ必ス父ノ側ニ侍シ、其意ニ承ケ順フ、暇アレハ、楮ヲコナシ、紙ヲ漉テ販リ、其價ハ、父ニ供ル酒肴ノ料トセリ、父ハ何ノ憂モナク、世ヲ過シタルカ、百一歳ノ壽命ヲ保テ、其顔色六十餘ノ人ノ如クミエシナリ、然レトモ、足弱リ腰痛ミテ、歩行スル能ハス、兄弟代ルく背負ヒテ、其意ノ向フ方ニ赴キケル、父身ヲ終ルマテ、ツヒニ其ヤマシキヲ覺ヘサリシナリ、遠方ノ人はヲキ、其里ノ民等ニ渠カ孝行ノサマヲ問ヒケルニ、父カ百年ノ齡ヲ保ツコトハ、真ニ孝子ノ力ニヨレリ、其他ノ事ハ云

フニヤハ及フヘキ、古ノ二十四人ノ孝子ニモナドカ劣ルヘキト、答ル人異ナレ氏皆一口ニ出ルカ如クナリシトカヤ、久留米藩主ニ聞エケレバ、兄弟ニ倉米若干ヲ賜フテ、深ク賞セラレタリ、實ニ寶曆八年春ノ初ナリ、

○薛包學ヲ好ミ行ヲ篤ス、父後妻ヲ娶リ包ヲ憎ミ之ヲ分チ出ス、包日夜號泣シテ去ルヲ能ハス、毆杖セラル、ニ至テ、己ムヲ得ス、舍外ニ廬シ、且ニ入テ灑掃ス、父怒リ又コレヲ逐フ、乃里門ニ廬ス、晨昏廢セス、積ムヲ歲餘ニシテ、父母慚テ之ヲ還ス、後喪ニ

服シテ衰ヲ過ス、既ニシテ弟子財ヲ分チ居ヲ異ニ
セン、ヲ求ム包止ムルヲ能ハス、乃其財ヲ中分ス、
奴婢ハ其老タルモノヲ引テ曰ク、我ト事ヲ與ニス
ルヲ久シ、汝使フヲ能ハサルナリ、田廬ハ其荒頓ナ
ル者ヲ取テ曰ク、吾少時理ル所意ノ戀フ所ナリ、器
物ハ其朽敗スルモノヲ取テ曰ク、我カ素ヨリ服食
スル所、身口ノ安ンスル所ト、弟子數、其産ヲ破レ
ハ、輒マタ賑給ス

○寶永中、幕府命アリ、流人上総市原郡、姉崎村次
郎兵衛カ田宅、没シテ官ニ在ルモノ五町七段ヲ以

テ、其子萬五郎ニ還昇フ、村ノ無主田六町ヲ以テ、其
奴市兵衛ニ授ケテ之ヲ賞ス、初次郎兵衛村ノ里正
タリ、同甲惣兵衛、銃ヲ以テ野豕ヲ驅リ、誤テ人ノ妻
ヲ斃ス、蓋歲時猛獸田ニアルヲ以テ、官授ルニ鳥
銃ヲ以シ、其姓名ヲ籍ス、唯硝藥ノミニシテ、鉛石ヲ
用井ルヲ勿ラシム、而ルニ惣兵衛ノ銃ニ丸アリ、斬
ニ處ス、次郎兵衛身里正トシテ以聞セス、事覺レテ
猶知ラサルマネスルヲ以テ、伊豆大嶋ニ流サル、其
田宅ミナ官ニ没入ス、次郎兵衛父老イ子幼シ、男女
五人、ステニ行テ其妻方ニ産ス、頗ル難ム、女ヲ生

テ死ス、市兵衛コレヲ懷キ、旁ク里中ニ巧フテ之ヲ乳ス、市兵衛妻ト謀リ、已カ女ヲ售テ人ノ婢トナシ、人ノ田ヲ佃リテ受ル所ノ者トヲ并セ、金若干ヲ得テ、一小廬ヲ買ヒ、次郎兵衛カ父幼子トヲ處キ、之ニ事ル、其主ノ在日ノ如シ、益人ノ田ヲ佃リテ、升合ノ入ヲ集メ、以テ衣食ニ供ス、是ニ於テ僅ニ飢寒ノ患ヲ免ル、次郎兵衛罪ニ就ク日、市兵衛ソノ身ヲ以テ、其主ノ罪ニ代ン、ヲ請フ、姊寄江戸ヲ距ル、往還三日程ハカリ、而シテ來請、初ノ如キモノ、月ニ必ス一二次、此ノ如キモノ亦十一年、都下ノ店主人、稍ク其スル所ヲ知り、爲ニ籌策セスト云、是歲二

月、市兵衛來リ訴ル、初ノ如シ、自ラ虚ク還ラスト矢フ、吏其由ヲ問フ、次郎兵衛父年八十三、中風ヲ患ヘテ、起卧自由ナラス、旦暮哀號シテ曰ク、一タヒ次郎兵衛ヲ見ル、ヲ得ハ、死ス、氏憾ミスト、且ツ諸子漸長シ、愈慕テ已マス、故ニ官威ヲ冒シテ懇ニ請ハ、暫ク次郎兵衛ヲ放還シ、老父ト訣ル、ヲ得セシメハ、小人身首處ヲ殊ス、氏辭セサル所ナリ、辞色哀惻、官廳ヲ聳動ス、事遂ニ聞ス、閣老僉議シテ、以爲、次郎兵衛カ罪赦サ、ルニ在リ、而レ氏市兵衛忠愛廢ス可ラスト、遂ニ此命アリ、

第二章

○凡ソ學ノ道ハ、師ヲ嚴ニスルヲ難シトス、師ヲ嚴ニシテ然ル後、道尊シ、道尊クシテ然ル後、民學ヲ敬スルヲ知ル、是故ニ君ノ其臣ヲ臣トセサル所ノ者ニツ、其尸タルニ當テハ、臣トセス、其師タルニ當テハ、臣トセサルナリ、大學ノ禮、天子ニ告クト雖モ北面ナシ、師ヲ尊フ所以ナリ、學記

○孟子曰ク、湯ノ伊尹ニ於ルコレニ學ンテ而後之ヲ臣トス、故ニ勞セスシテ王タリ、桓公ノ管仲ニ於ルコレニ學ンテ而後之ヲ臣トス、故ニ勞セスシテ

覇タリ

○君子ノ學ヤ、義ヲ説ケハ、必師ヲ稱シテ以テ道ヲ論ス、聽從スレハ、必力ヲ盡シテ以テ光明ニス、聽從力ヲ盡サス、之ヲ命ツケテ背ト曰フ、義ヲ説ヒテ師ヲ稱セサル、之ヲ命ツケテ叛ト曰フ、背叛ノ人、賢主之ヲ朝ニ内レス、君子與ニ交友タラス、呂氏春秋
○礼ハ身ヲ正クスル所以ナリ、師ハ礼ヲ正クスル所以ナリ、礼ナクンハ何ヲ以テ身ヲ正サン、師ナクンハ吾馬ッ礼ノ是タルヲ知ランヤ、禮然リトシテ而シテ然トス、則是情禮ニ安スルナリ、師云テ而シ

テ云フ、則知師ノ若キナリ、情禮ニ安シ、知師ノ若ク
ナレハ、則是聖人ナリ、故ニ礼ヲ非トスレハ、法ヲ無
ス、師ヲ非トスレハ、是師ヲ無ス、師法ヲ是トセスシ
テ自用キル、之ヲ譬フルニ、是猶盲ヲ以テ色ヲ辨シ、
聾ヲ以テ聲ヲ辨スルカコトシ、荀子

○安東省菴、筑後ノ人、柳川藩主立花氏、二百石ヲ以
テ之ヲ聘ス、明暦乙未、明人朱舜水来リテ長崎ニ寓ス、人
未其學ヲ知ルニ及ハス、唯省菴往テ之ヲ勸トス、時
ニ舜水貧甚シ、乃其禄ノ半ヲ割テ之ニ與ヘ、間々珍
異ヲ加贈ス、而シテ自ラ奉スルヲ、敝衣糲飯ノミ、宗

親朋友ミナ諫沮ス、省菴恬然トシテ顧ミス、惟日夜
書ヲ讀ミ道ヲ樂ムノミ、伊藤東涯稱シテ關西ノ巨
儒トス、清人張斐文、長崎ニ至リ、書及ヒ詩ヲ寄セテ
之ヲ褒賞ス、

○山崎闇齋寒窶ニシテ、儋石ノ畜ナシ、書肆ノ鄰ニ
賃居シ、其書ヲ借閱ス、河内侯メシテ之ニ學ントシ
テ、書商ヲシテ其意ヲ言ハシム、闇齋曰ク、侯道ヲ問
ント欲セハ、則先來リ見ヨ、商以テ時勢ニ通セスト
ス、他日侯問テ曰ク、疇昔告ル所、山崎生イカン、商曰
ク、前日既ニ命ヲ渠ニ傳フ、渠曰ク、侯先ツ來テ余ヲ

見ヨト、是頑愚ニ非ンハ、即狂率ナリ、請フ別ニ通儒ヲ選ヘ、侯咨嗟ヤ、久クシテ曰ク、方今自ラ師儒ト稱スルモノ、多ク道ヲ行フニ意ナシ、東奔西走シテ、其伎ノ售レ易カラシムヲ欲ス、而ルニ吾コレヲ聞ク、礼ハ来リ學フヲ聞ク、往キテ教ユルヲ聞ズ、山崎生能ク之ヲ守レリ、此真ノ儒者ナリト、即日駕ヲ命シ其居ヲ訪フ、

第三章

○管子曰ク、倉廩實テ礼節ヲ知リ、衣食足りテ榮辱ヲ知ル、

人情テ侈レハ則貧シ、カメテ儉ナレハ則富ム、同上
○衣食住並ニ欠ヘカラス、而シテ人欲モ亦此ニ在リ、又其甚キモノハ食ナリ、故ニ飲食ヲ菲スル、尤先務トス、言志叢錄

○五穀豐歉、亦大抵數アリ、三十年前後必小饑荒アリ、六十年前後必大凶歉アリ、較遲速アリト雖、竟ニ免ル、能ハス、之カ豫備ヲナサ、ルヘケンヤ、言志後錄
○萬事ミナ法アリ、法ニ従ヘハ其道立チテ、其事成ル、法ヲ守ラズシテ、只吾心ニマカセ行ヘハ、必ス其事ヤフル、家ヲ治ムルニ尤モ法アルヘシ、法ナケレ

ハ必財ツキ、困窮シテ家ヲタモテ難シ、凡ソ家ヲ治
ルニ、財ヲ用ル法ヲ知リテ、堅ク慎ミ守ルヲ要トス、
是ヲ知リテ守ルト、知ラスシテ守ラサルトハ、家ノ
盛衰存亡ノ本ニシテ、其係ル所イト重キコトナレ
ハ、常ニ心ヲ用キ、能クソノ法ヲ守ルヘシ、家道訓
家ヲ保ツ道ハ、勤ト儉トノ二ツニ在リ、四民共ニ勤
ムレハ、家業ヨクヲサマリ、財祿ヲ得ル基トナリ、又
家事能ク整リ家治ル、是レ勤ムルハ、財祿ヲ得ル本
ナリ、儉約ナレハ、財ヲ失ハスシテ能ク家ヲ保ツ、是
レ儉約ハ、財ヲ保チテ失ハサル道ナリ、二ノ者並ヒ

行ハレテ家道立以、又勤ト儉トノ工夫ハ、忍フニ在
リ、勞苦ニ堪ヘ私欲ヲ忍ハサレハ、儉約ヲ行フコト
能ハス、全上

○筑後守道首名、少フシテ律令ヲ治メ、吏事ヲ曉習
ス、其筑後守タル、肥後ノ事ヲ攝ス、生業ヲ勸勵シ、耕
種ヲ教督ス、菜果ヲ植ユ、雞豚ヲ養フニ至ルマテ、曲
ニ事宜ヲ盡ス、時ニ躬按行シ、教ニ遵ハサルモノア
レハ、輒之ヲ譴責ス、老少竊ニ之ヲ怨罵ス、收入スル
ニ及テ、悦服セサルモノ莫シ、又陂池ヲ興シテ灌漑
ヲ廣クス、肥後味生、及筑後所在陂池皆是ナリ、人其

利ヲ蒙ル故ニ吏事ヲ言フモ人咸以テ稱首トス
○岡左内蒲生秀行ニ仕ヘ一萬石ヲ食ム左内貨殖
ヲ好シテ家資巨萬ヲ累ヌ毎月ニ三次大小判及ヒ
他碎粒諸金ヲ一室ニ陳列シ身其中ニ枕藉シテ以
テ樂ムトヲ為ス人皆之ヲ賤ム偶隣閭閻ヲ著アリ
人アリ來リ告久左内摒擋ニ暇アラヌ直ニ往テ之
ヲ和解シ信宿ニシテ返レハ則黃白猶室中ニ散在
セリ衆始テ其宏度ニ服ス馬奴黃金一枚ヲ藏ムル
モノアリ左内大ニ之ヲ奇トシテ曰久人ノ心ヲ用
ル當ニ此ノ如クナルヘシト之ヲ賞スル二十金ヲ

以テス左内後忠郷ノ時ニ至テ死ス其病革ナルニ
及テ遺金三萬兩ヲ忠郷ニ獻シ副ルニ正宗乃一口ヲ以テ
ス三千金ヲ以テ其弟忠知ニ獻シテ曰久聊カ以テ平昔ノ恩
ヲ報ス其諸友ニ遺贈スルモノ五金十金ヨリ以テ
百金ニ至ル各等差アリ而シテ借約舊券ハ則其櫃
ヲ并セテ之ヲ燒久

○青木昆陽嘗嘆シテ曰久凡ソ罪アリテ死刑ニ非
ルモノハ遠ク之ヲ島嶼ニ放シ要其ヲシ天年ヲ終
ヘ使ムルニ在ノミ然レモ諸島五穀少シ常ニ海產
木實ヲ以テ食ニ給ス是ヲ以テ往々餓死ヲ免ル

「能ハス、豈亦痛シカラスヤ、即シ種藝ノ地ト雖、歲
歉ニ遇ヘハ、則民菜色ナキ」能ハス、意フ、二百穀ノ
外、穀ニ當ツヘキモノハ、蕃薯ニシクモノナシ、乃官
ニ陳シ、種子ヲ薩摩ニ求メ、試ニ之ヲ官ノ藥苑中ニ
種レハ、則極テ蕃衍、是ニ於テ國字ヲ以テ蕃薯考一
卷ヲ著シテ、其培植ノ法ヲ演ス、官鑄版シテ、種子ヲ
併セ、諸島及諸州ニ行下ス、未數年ナラスシテ、處ト
シテ種エサルコナシ、今ニ至テ上下之ヲ便トス、實
ニ昆陽ノ惠ナリ、没スルニ及テ、其墓門ノ碑ニ題シ
テ、甘諸先生ト曰フ、

第四章

勉強

○葉公孔子ヲ子路ニ問フ、子路對ヘス、子曰ク、女チ
奚ソ曰サル、其人トナリヤ、憤ヲ發シテ食ヲ忘レ、樂
テ以テ憂ヲ忘ル、老ノ將ニ至ントスルヲ知ラスト、
○子曰ク、譬ヘハ山ヲ為ルカ如シ、未一簣ヲ成サス
シテ止ハ、吾止ナリ、譬ヘハ平地ノ如シ、一簣ヲ覆ス
ト雖モ、進ムハ、吾往ナリ
○子曰ク、後生畏ルヘシ、焉ソ來者ノ令ニシカサル
コヲ知ランヤ、四十五ニシテ聞ユルコナキハ、斯
亦畏ル、ニ足ラサルノミ、

○子曰ク、學ハ及ハサルカ如ク、猶之ヲ失ハニテヲ恐ル、

○子思曰ク、君子ハ學ハサルヲアリ、之ヲ學ニテ能セサレハ措カス、問ハサルヲアリ、之ヲ問フテ知ラサレハ措カス、思ハサルヲアリ、之ヲ思フテ得サレハ措カス、辨ヘサルヲアリ、之ヲ辨ヘテ明ニセサレハ措ス、行ハサルヲアリ、之ヲ行フテ篤クセサレハ措カス、人一タヒニ之ヲ能スレハ、已コレヲ百タヒス、人十タヒニ之ヲ能スレハ、已コレヲ千タヒス、果シテ此道ヲ能スレハ、愚ナリト雖モ必ス明カニ、柔

ナリト雖モ必ス強シ、

○服南郭某歳元日、物徂徠ヲ訪フ、徂徠方ニ机ニ隠テ孫子ヲ閱ミス、面垢テ洗ハス、髪亂テ梳ラス、新年ヲ知ラサルモノ、如ク、疊々兵ヲ談シテ置カス、南郭竟ニ新禧ヲ祝スルヲ得ス、

○明石ニ一士人アリ、射ヲ好ム、色ヲ好ムヨリ甚シ、而ルニ左臂拘攣ニシテ、弓ヲ引キ滿ツルヲ能ハス、師ニ就キテ學フ、三月ニシテ進ム所ナシ、師曰ク、止ンカ、人各能スル所アリ、何ソ獨リ弓ノミナランヤ、士人退キテ深ク憾ミ、意ヲ決シ妻ヲ出シ、獨リ一

室ニ卧シ、晝ハ則弓ヲ執リ、夜ハ則石臼ヲ以テ其肱ニ
荐キ、目タメニ安眠セサルモノ三年、ソノ門前ヲ過
ルアリ、弦聲ヲ聴キテ曰ク、此名手ナリ、吾コレカ業
ヲ受ント、入リテコレヲ問ヘハ、則ソノ旧弟子ナリ、
大ニ驚キテ以テ神トス、蓋シ勉強忍耐ノ功タル、真
ニ意料ノ表ニ出ルモノ此ノ如シ、

○劉器之、司馬溫公ヲ見テ、誠ヲ學フニ、妄語セサル
ヨリ始ムト云フ、説ヲ聞キ、ハシメ甚コレヲ易シトス、退キ
テ自ラ脩治スルニ及ンテ、日ノ行フ所ト、凡ソ言フ
所ト、自ラ相矛盾スルモノ多シ、カメ行フコト七年

ニシテ成ル、此ヨリ言行一致、表裏相應シ、事ニ遇
テ坦然トシテ、常ニ餘裕アリ、

○范仲淹、南都ノ學舍ニ處テ、晝夜苦學ス、五年未嘗
衣ヲ解キ、寢ニ就カス、夜或ハ昏迷スレハ、輒水ヲ以
テ面ニ沃久、往々ニ饘粥充タス、日昃テ始テ食フ、同
舍生或ハ珍膳ヲ饋レ、氏皆拒テ受ケス、

○范仲淹、門下多ク賢士ヲ延久、胡瑗、孫復、石介、李覲
ノ徒、トモニ從遊シ、晝夜業ヲ肄ス、燈ヲ帳中ニ置キ、
夜分寢ネズ、後仲淹貴シ、夫人猶其帳頂墨色ノ如キ
ヲ收メ、時ニ以テ諸子孫ニ示シテ曰ク、爾父少時勤

學燈煙ノ迹ナリ、

○胡安定布衣ノ時、孫明復石守道ト同ク書ヲ泰山ニ讀ム、攻苦食淡、終夜寢ネス、一坐十年歸ラス、家問ヲ得テ上ニ平安ノ二字アレハ、即之ヲ澗中ニ投シ、復展讀セス、

第五章

○書ニ云ク、虞ルヲ無キニ儆戒シ、法度ヲ失フナカレ、
○書ニ曰ク、治ヲ未亂サルニ制シ、邦ヲ未危カラサルニ保ツ、

○詩ニ曰ク、天ノ未陰雨セサルニ追ンテ、彼桑土ヲ徹リテ牖戸ヲ綢繆ス、今此下民、アヘテ予ヲ侮ルモノアラシヤ、孔子曰ク、此詩ヲツクルモノハ、其レ道ヲ知レルカ、能クソノ國家ヲ治メハ、誰カ敢テ之ヲ侮ランヤ、

○君子ハ幾ヲ見テ作ル、日ヲ終ルヲ俟タス、周易
○朝者ハ遠ク未萌ニ見ル、知者ハ危ヲ無形ニ避ク、禍固ヨリ多ク隱微ニ藏レテ、人ノ忽セニスル所ニ發ル、董仲舒

○功ノ成ル、成ルノ日ニ成ルニ非ス、盖必由テ起ル

汚アリ禍ノ起ルル日ニ起ラス亦必由テ此ス

汚アリ、蘇老泉

○官ハ宦ヘ成ルニ怠リ、病ハ小シク愈ルニ加リ、禍ハ懈惰ニ生リ、孝ハ妻子ニ衰ス、說苑

○平治元年冬、平清盛、ソノ子重盛ト、筑後守家貞等五十人ヲ率テ、熊野ニ詣ルトキ、行テ切部ニ至ル六波羅ノ使者來告テ曰、昨夜藤原信賴源義朝賴政光基等ト、兵五百ヲ率テ、三條殿ヲ圍ミコレヲ火ス、並ニ少納言ノ第ヲ火ス、殺傷算ナシ、即チ上皇及ヒ主上ヲ禁内ニ幽ス、少納言モ亦害ニ遭ス、衆愕然

タリ、清盛曰クコレヲスルコト何如シ、宜ク熊野ニ到リコレヲ計ルヘキカ、重盛曰ク武臣天子ノ急ニ赴ク、何ソ猶豫スルコトヲ為シ、清盛曰ク甲ナキヲ如何、家貞曰ク、臣豫々是事アランコトヲ慮ルトソノ擔ヲ開ケハ、甲冑五十ヲ出ス、器械弓箭ユレニカナハ衆乃チ結束シテ北ニ還ル、

○大炊頭土井利勝、漢絲ノ零餘尺許ヲ舉テ、侍臣大野仁兵衛ニ附シテ曰ク、謹テ之ヲ藏メヨ、同僚或ハ其鄙吝ヲ笑フ者アリ、利勝置テ問ス、居テ三年、偶利勝腰刀ノ帶尾解ク、急ニ仁兵衛ヲ呼テ曰ク、附スル

所ノ漢絲ヲ持來レ、仁兵衛應テ曰久唯此ニアリ直
ニ之ヲ腰袋ヨリ取テ以テ呈ス、利勝乃手自拮据シ、
以テ其帶尾ヲ結束シ、欣然微笑シテ曰久、無用ノ用、
今ニシテ而テ驗アリ、遂ニ其老寺田與左衛門ヲ召
シ、之ニ命シテ曰久、吾甚大野仁兵衛カ謹懃ニシテ
主命ヲ重スルヲ嘉スルナリ、其祿三百石ヲ増與ヘ
ヨ、

○春秋ノ時、魯季文子晋國ニ聘問セントス、喪ニ遭
フ礼ヲモトメテ以テ行クソノ家臣曰久、將ニ焉ソ
之ヲ用ントス、文子曰久、不虞ニ備豫スルハ、古ノ善

教ナリ、求メテコレナキトモ、ニハカニ得カタシ、過
キモトムルハ、何ソ害アラシ、

第六章

○孔子曰久、人トシテ信ナクシハ、其可ナルヲシラ
ス、大車軌ナク、小車輓ナクシハ、其レ何ヲ以テ之ヲ
行ランヤ、

○信ハ人ニ接ルニ、實ヲ以テスル謂ニシテ、是人ニ
接ル本タリ、人モシ信ナケレハ、便言行皆虚妄ナリ、
必信アリテ而シテ、後人ト接ルヘシ、夫人ニ接ルニ、
固ヨリ愛敬ヲ以テ本トス、然レ信ニ出テサレハ、

則其顔ヲ温ニシ、貌ヲ恭スル所徒ニ虚飾トナル、何
ソ愛敬トスルニ足ランヤ、初學知要

○政ノ大要曰ク、兵曰ク信、民食ヲ以テ天ト
ス、一日食ナケレハ、流離殍餓溝壑ニ轉徙ス、是足サ
ル可ラサルナリ、三里ノ城、七里ノ郭、兵以テ守ル
ヲナケレハ、則險阻アリト雖、必敵ニ陷レラル、是兵
足サ、ルヘカラサルナリ、夫食ナクンハ、何ヲ以テ
民ヲ養ハニ、兵ナクンハ、何ヲ以テ國ヲ守ラン、信ヲ
語ルニ至テハ、則寧羅斯ニツ者ヲ去ル氏、而モ信失
フヘカラス、何トナレハ、則信蓋民ノ司命ナリ、史告

○上ニ事ヘ、下ヲ使フ、皆信ヲ以テ主トス、人ノ從ハ
サルモ、人皆已ノ信、以テ信ヲ取ルニ足ラサル故ナ
リ、尹燦

○近江ニ貧窮ナル農夫某アリ、金若干ヲ入ニ借リ、
六月ヲ期シテ償却スルヲ約ス、シカルニ貧マス
マス甚シク、其期ステニ至テ、約ノ如クスルヲ能ハ
ス、僅ノ田地ヲ悉ク賣リ、其金ヲ以テ債主ノモトニ
往キ、之ヲ償却ス、債主之ヲ憫ミ、僕ハ始ヨリ足下ニ
呈スル念ニテ、返還ヲノソマスト云フ、農夫ハ君ノ
恩惠實ニ至渥ナリ、然レモ借リタルモノヲ返サ、

ル理ナシト曰テ之ヲ返シタリ

○漢朱暉張堪ト縣ヲ同フス、堪大學中ニ於テ暉ヲ見ル、接スルニ友道ヲ以テシ、其臂ヲ把テ曰ク、妻子ヲ以テ朱生ニ託セント欲ス、暉堪カ先達ヲ以テ敢對ヘス、自後復相見ズ、張亡ヒテ後、朱其妻子貧困ヲ聞キ、自往テ候視ス、居食ヲ分チ之ニ給ス、暉ノ子怪ミ問テ曰ク、大人張君ト友タラス、何ソ忽此ノ如クナルヤ、暉曰ク、堪嘗知己ノ言アリ、吾已ニ心ニ信スルナリ、故ニ之ニ負クニ忍ヒス、

○後漢、范式字ハ巨卿、山陽金鄉ノ人、少メ大學ニ遊

ヒ、汝南ノ張劭ト友タリ、劭字ハ元伯、二人並ニ鄉里ニ告歸ス、式元伯ニ謂テ曰ク、後二年當ニ還ルヘシ、將ニ過テ尊親ヲ拜シ、孺子ヲ見ントス、乃共ニ期日ヲ尅ス、後期方ニ至ル、元伯具ニ以テ母ニ白シ、饌ヲ設ケテ以テ之ヲ候ント請ス、母ノ曰ク、二年ノ別、千里言ヲ結ス、爾何ソ相信スルノ審ナル、對テ曰ク、巨卿ハ信士、必乖違セス、母曰ク、若シ然ラハ當ニ爾カタメニ酒ヲ醢スヘシ、其日ニ至ル、巨卿果シテ到リ、堂ニ升リ拜飲シ、歡ヲ盡シテ別ル、

○闕敝ハ汝南平輿ノ人ナリ、其太守第五常ニ仕フ、

常召サレテ京ニ往ク片、錢壹百三十萬ヲ闕敞ニ託セリ、闕敞之ヲ遞ラント欲スレ、時兵乱ニ際シテ、道路通セス、既メ闕敞貧窶甚久、殆飢餓ニ迫レリ、其妻曰ク、第五常ノ託セル錢ヲ以テ急ヲ補ヒ、他日金ヲ得ル片之ヲ償ハント、闕敞曰ク、不可ナリ、道路ノ通スルヲ待チテ遞ラント之ヲ土中ニ埋メケリ、既メ弟五氏疫癘ニテ悉死シ、惟九歳ノ孫兒ヲ遺セリ、常方ニ死セントスルトキ、之ニ曰フ、我昔汝南ノ闕敞ニ錢三十萬ヲ託シ置ケリ、汝後之ヲ取ヘシ、孫兒成人シ、落魄シテ汝南ニ往キケレバ、闕敞大ニ喜ヒ

百般之ヲ饗シ、錢ヲ掘出タシテ、悉之ヲ與ヘリ、其兒曰ク、吾カ祖父ハ三十萬錢ト言ヘリ、其他ヲ受ケス、闕敞曰ク、是レ君ノ祖病ノ為ニ精神ヲ擾サル、ノミ、實ニ一百三十萬錢ナリト云、肯ハサリシト云、○鄭叔通年少キ片、夏氏ノ女ヲ娶ランヲ約シ、京師ニ遊ヒ、學成リテ官ニ上レリ、後國ニ歸リテ、其女ヲ迎ヘントセシニ、其女病ヒニヨリテ喑啞トナレリ、叔通ノ親戚相謀リテ、他ノ女ヲ娶ラント欲ス、叔通曰ク、無病ノ時之ヲ娶ラント約シ、病スルニ及ヒテ之ニ背クハ、吾カ心ニ於キテ安カラスト、遂之ヲ

娶レリ、其女ノ子、後高官ニ上レリト云フ、

○元魏ノ翟黑子、太武ニ寵アリ、并州ニ使ヲ奉シテ、布千匹ヲ受ク、事覺ル、黑子、著作郎高允ニ謀テ曰ク、主上我ニ問ハ、當ニ實ヲ以テ告クヘキカ、マサニ之ヲ諱ムヘキカ、允曰ク、公ハ帷幄ノ寵臣、罪アリテ實ヲノヘハ、或ハユルサル、ニ庶ラン、重テ欺罔ヲナスヘカラサルナリ、中書侍郎崔鑒、公孫質曰ク、モシ實ヲノヘハ、罪測ルヘカラス、姑クコレヲ諱ンニハ如カス、黑子允ヲ怨ミテ曰ク、君イカンソ人ヲ誘ヒテ死地ニ就ク、入リテ帝ヲ見テ、實ヲ以テ對ヘス、

帝怒テ之ヲ殺セリ、

帝允ヲシテ太子ニ經ヲ授ケシム、崔浩ハ史事ニ連坐シ、收ラル、ニ及テ、太子允ニ謂テ曰ク、入テ至尊ヲ見ハ、吾自ラ卿ヲ導キテ、脱レシメント欲ク、至尊問フコトアラハ、但吾カ語ニ依レ、太子帝ヲ見テ言フ、高允ハ心ヲ小ニシテ、慎密、且ツ微賤ナリ、制ハ崔浩ニ由ル、請フソノ死ヲ赦セ、帝允ヲ召シテ問フテ曰ク、國書ハ、皆浩カスル所カ、對ヘテ曰ク、臣浩ト共ニ之ヲナス、然ルニ浩カ領スル所ノ事ハ、多ク總裁ノミ、著述ニ至リテハ、臣浩ヨリ多シ、帝怒テ曰ク、允カ

罪浩ヨリ甚シ、何ヲ以テ生ヲ得シ、太子懼レテ曰ク、
天威嚴重、元ハ小臣迷乱シテ次ヲ失フノミ、臣サキ
ニ問ヘハ皆浩カ、為ル所ト云フ、帝元ニ問フ、信ニ東
宮ノ言フ所ノ如キカ、對テ曰ク、臣カ罪族ヲ滅スニ
アタル、敢テ虚妄セス、殿下臣カ侍講日久シキヲ以
テ、臣ヲ哀ミ、其生ヲ丐ハント欲スルノミ、實ハ臣ニ
問ハス、臣モ亦此言ナシ、帝顧ミテ太子ニ謂テ曰ク、
直ナル哉、此レ人情ノ難キ所、而ルニ元能ク之ヲナ
ス、死ニ臨ンテ辞ヲ易ヘサルハ、信ナリ、臣トシテ君
ヲ欺カサルハ、貞ナリ、宜ク特ニソノ罪ヲ除キテ、之

ヲ旌スヘシト、遂ニコレヲ赦ス、
他日太子元ヲ讓メテ曰ク、吾卿カタメニ死ヲ脱レ
ンメント欲ス、而ルニ卿従ハサルハ何ソヤ、元曰ク、
臣崔浩ト實ニ史ノ事同フス、死生榮辱義ヒトリ殊
ナルヲナシ、殿下再造ノ慈ヲニナフトモ、心ニタカ
フテ苟モ免ル、ハ臣カ願フ所ニアラサルナリ、太
子容ヲ動シテ稱嘆ス、元退キ人ニ謂テ曰ク、我東宮
ノ指導ヲ奉セサルモノハ、崔黑子ニ負クヲ恐ル
、カ故ナリ、

○明注文輝諸生タル時、臺試ニ就ク、友又與ニ偕ニ

スル者馬旋シテ水ニ墮テ死ス同列試期迫促ヲ以
 テ倉皇解散シテ去ル汪獨留リ之ヲ殯殮シテ乃去
 ル至ル比ヒ試期ニ及ハス人皆其迂ヲ笑汪自若タ
 リ次科即弟ニ登ル
 ○明吳廷舉平生友誼篤シ大學ニ遊ヒ羅珣ト交リ
 厚シ珣痢ヲ病ムニ會フ從者モ亦死ス吳為ニ粥ヲ
 煮テ之ニ餉リ之ヲ負フテ厠ニ登ル一晝夜十數
 次勞トセス珣人ニ語テ曰久某四十年前我ヲ生ム
 モノハ父母四十年後我ヲ生スルモノハ吳公ナリ後同ク進士ト
 修身初訓卷之九終

明治十五年三月廿四日版權免許
 同年五月刻成

明治二十年二月
 編輯人 福岡縣士族 宮本茂傳
 同縣士族 宗盛 年
 同縣區地行八番面 二千五十番地

出版所 連壁製本會社

同縣同區下名島町 十五番地